

次の各文は、平安時代の朝廷や貴族の政治と武士の台頭について述べたものである。内容として誤っているものはどれか。1 ~ 5 から一つ選べ。

- 1 9世紀中ごろから、貴族の藤原良房は娘を天皇の後とし、天皇が幼い時は摂政として、また成人してからは関白として政治の実権を握り、摂関政治を行った。
- 2 10世紀になると地方の有力な豪族は、朝廷や貴族につかえて武士としての地位を高め、さらには家来をまとめて武士団を形づくるようになった。
- 3 武士団のなかでも天皇の子孫である源氏と平氏が強い勢力を持ち、11世紀後半には源氏は主に東日本に勢力を広げ、平氏は主に西日本に勢力を伸ばした。
- 4 白河天皇は、1086年、天皇の位を幼少の皇子に譲り、みづからは上皇として院庁をおき、政治の実権を握る院政を行うようになった。
- 5 12世紀になり、平清盛は後鳥羽上皇の院政を助け、武士として初めて太政大臣になった。